

経営比較分析表（令和4年度決算）

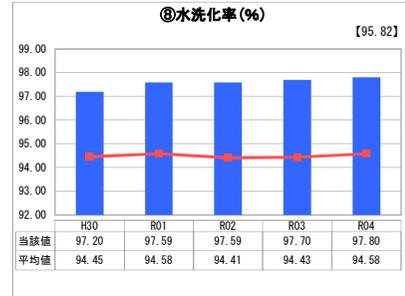
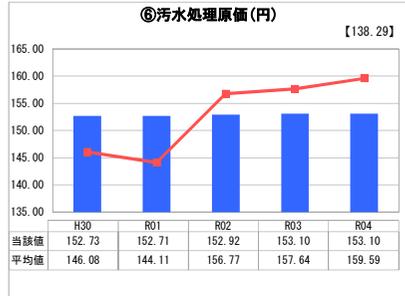
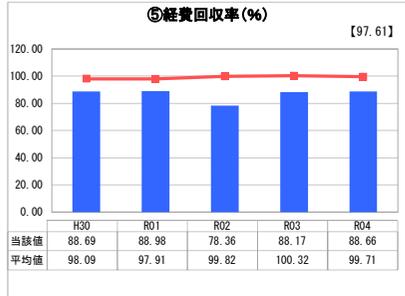
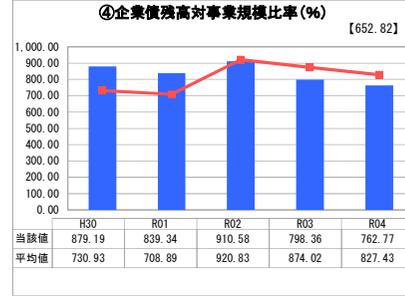
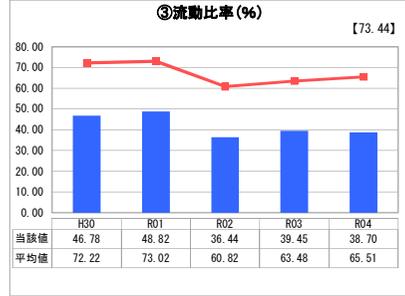
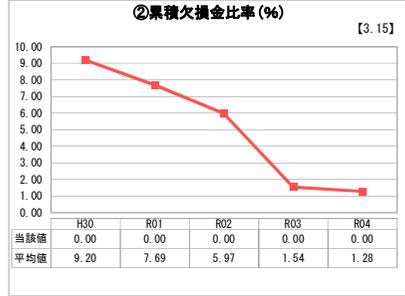
石川県 金沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	自治体職員 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	51.78	98.09	85.34	2,651

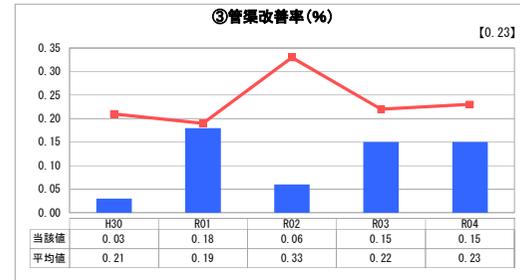
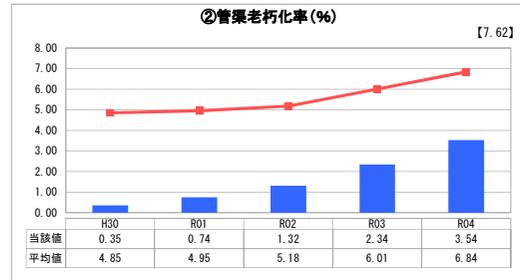
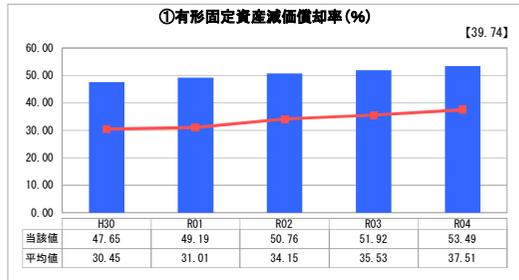
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
447,181	468.81	953.86
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
437,196	89.18	4,902.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、黒字を示す100%以上を上回っており、安定経営を維持している。
 「③流動比率」は、類似団体平均値を下回っているが、企業償還の進捗に合わせて、財源を確保しており、短期的な支払能力は有している。
 「④企業債残高対事業規模比率」は、短期間で集中的な面整備が平成27年度で終了し、企業債残高が徐々に低減してきた結果、令和2年度から類似団体平均値を下回っている。
 「⑤経費回収率」は、低廉な料金単価の影響を受け、約90%に留まっているが、「⑥汚水処理原価」は、類似団体平均値を下回っており、経営の効率化に努めている。
 一方、施設の利用状況を示す「⑦施設利用率」は、全国平均並みではあるが、水需要の減少などに伴い、低下傾向にあることから、将来的に、適切な施設規模を検討していく必要がある。
 「⑧水洗化率」は、類似都市平均を上回っており、施設の整備が効果的に収益につながっているが、さらなる効率化に向けて、引き続き、水洗化率向上の取組を講じていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、法定耐用年数の短い機械・電気設備を中心に、類似団体平均を上回る数値となっている。
 一方、「②管渠老朽化率」及び「③管渠改善率」は、本市の下水道の整備開始時期が他都市と比べ比較的遅く、耐用年数を超えた下水道管が多くないことから、類似都市平均値を大きく下回っている。

全体総括

本市下水道事業は、平成27年度をもって計画的な面整備を完了し、現在、管渠改築事業など更新事業が中心となっている。
 経営面では、平成26年度末をもって累積欠損金を解消したほか、企業債残高も低減しており、経営状況は概ね健全な状況にあると言える。
 一方、毎年度、多額の償還財源の確保を要するほか、施設の老朽化が進み、更新投資のための資金需要が増加することが予想される。
 汚水処理施設の包括委託など、経営の効率化を進めているが、水道事業と同じく、水需要の減少に伴い使用料収入が減少する中、多額の経費を必要とすることから、ストックマネジメント計画に基づき、施設の効率的な改築更新を推進し、ライフサイクルコストの低減に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。